

金田一の大口用水路



【ナレーション】
これは、今から300年ほど前、現在の二戸市金田一地区で、
村のために、遠く離れた川から水を取り入れるための大口用
水路を作った人たちのお話です。

金田一の大口用水路



【ナレーション】

今から**300年**ほど前、江戸時代の頃、金田一村では水が少なく、田んぼでお米があまり取れませんでした。

お米の代わりにヒエやアワなどの雑穀を作っていましたが、村のみんなが生きていけるほどの量が取れず、とても苦しい生活を送っていました。

村では、少ない沢水をためて田んぼに利用していましたが、ある日、大雨で水路が壊れて洪水となり、たくさんの家が流され、家族を失った者もいました。

金田一の大口用水路



【ナレーション】
水がなくなり、食べるものが作れないため家族を失った五兵衛(ごへい)と多作(たさく)は、お墓の前にいました。

【五兵衛】
「どうしてこんなことになったんだ…
もっと米を作ることができれば、お前たちも生きていられたのに…」

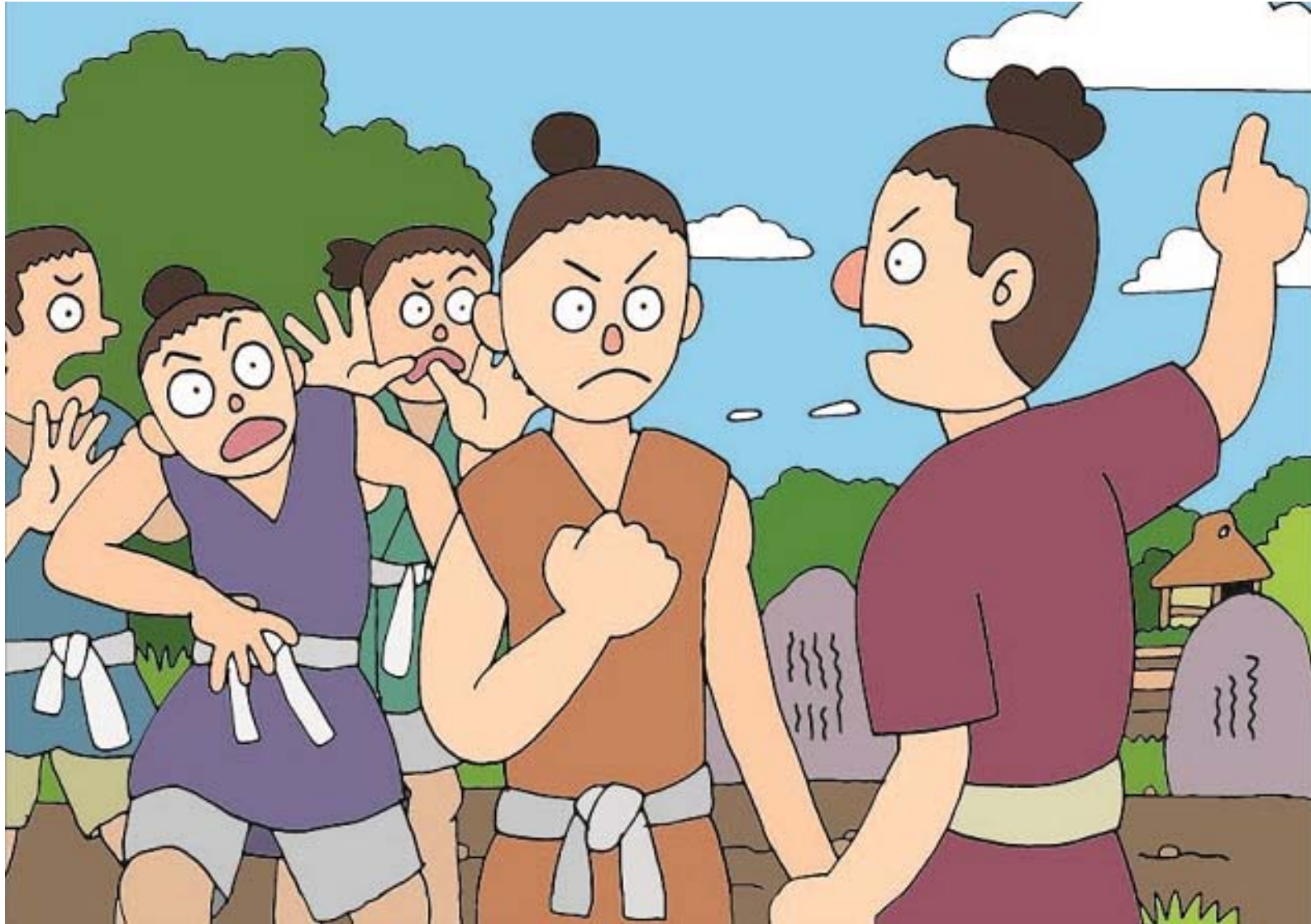
【多作】
「このままではみんなたおれてしまう…
でも、もう沢田の川からは水は引けない…どうするべ。」

【五兵衛】
「どこからか水を引かねば…」

【ナレーション】
五兵衛はふとつぶやきました。

【五兵衛】
「斗米村(とまいむら)の十文字川(じゅうもんじがわ)はどうだろう!？」

金田一の大口用水路



【ナレーション】

村人たちは驚いて顔を見あわせました。

【五兵衛】

「あの川は高いところを流れている。
そこから水を引いたら、田んぼで米がたくさん作れるぞ！」

【村人A】

「な、何言ってるだ！
となり村の川でねえか!?
遠すぎるし、よその村の川の水なんて、使えないに決まっ
ろうが！」

【多作】

「おらは賛成だ。放っておいたらもっと仲間がいなくなるぞ。
おらは死んだ家族のためにも、水を村に引きたい。」

【村人A】

「でも、どうやって説得する？」

【五兵衛】

「おらに考えがある。まかせてもらえないか。」

【ナレーション】

五兵衛は次の日、斗米村に住む長左工門(ちょうざえもん)
の家をたずねました。

金田一の大口用水路



【長左エ門】
「おおー、五兵衛、久しぶりだな！」

【五兵衛】
「兄さん、お久しぶりです！ 実は…
折り入ってお願いがあって来ました。」

【ナレーション】
五兵衛は、長左エ門の弟なのでした。

【五兵衛】
「兄さんは十文字川の周りに土地をたくさん持っていますよね。
無理を承知でお願いします。
なんとか、私の村のために川の水を使わせてもらえないで
しょうか。
このままでは金田一村のみんなが死んでしまいます。」

【長左エ門】
「なんと!!お前の村はそんなことになっていたのか…
それは大変だ。
う〜ん…正直、とない村のために川の水を使うのは村のみんなに反対されると思う。
だが、実の弟の頼みとなれば話は別じゃ。
よし、村人は、わしが説得しよう！」

【五兵衛】
「兄さん、ありがとうございます！」

金田一の大口用水路



【村人C】
「あの川はうちの村のもんだ！」

【村人D】
「とない村のためにうちの川を使うなんて納得できません！」

【村人C】
「そうだ！うちの田んぼに水が来なくなる！」

【ナレーション】
斗米村の人たちは案の定、工事に反対しました。

【長左エ門】
「うむ。
皆の気持ちはよく分かる！
しかし考えてほしい。
もしも逆の立場ならどうだ？
自分の家族が死ぬかも知れない時に助けを求めた人に冷たくされたら、どう思う？
みんな、分かるだろう？」

【ナレーション】
村人は顔を見合わせ、やがて静かにうなずきました。

その後、五兵衛は多作とともに十文字川を見て歩き、水の取り入れ口をどこにするか調べ、村人に発表しました。

金田一の大口用水路



【村人A】
「えー、そんなの無理だ！」

【ナレーション】
話を聞いた村人が、みんな驚いたのも無理はありません。ふたりの計画では、十文字川からの水の取り入れ口を、固い岩をくりぬいて作るというのです。

【五兵衛】
「皆さん、取り入れ口は、丈夫な岩のところに作るのがイチバンです。」

【多作】
「昔の水路を思い出してくれ。弱い作りの水路だったから、洪水となり、家族が流されてしまったではないか!!」

【ナレーション】
村人は、静まり返りました。しばらくすると、

【村人A】
「でも、何年もかかりそうだ…
おれたちが家の仕事をしながら穴を掘るのは無理だ…」

【村人B】
「米も作れねえで弱ってるところに、
もっと稼ぐなんて無理だ…」

【ナレーション】
と口々に言いました。

そこへ、

金田一の大口用水路



【ジンタ】
「おらがやろう!!」

【ナレーション】
悩んでいる村人たちを見て、立ち上がる者がいました。

【村人B】
「ジンタ!!」

【ジンタ】
「おら、このとおい足が悪いで、田畑の仕事はできねえが、つるはしやノミなら使える。飯を食わせてもらえるなら、おらが毎日行って、岩に穴を開けるよ。」

【五兵衛】
「本当かジンタ、ありがとう！おらも一緒にやるよ。みんなも、時間の空いた時でいいから協力してくれよ!!」

【ナレーション】
こうして、工事が始まりました。

金田一の大口用水路



【ナレーション】

ジンタは長左工門が紹介してくれた十文字川の近くの家に
住み込みで、寒い冬の日も、暑い夏の日も朝から晩まで毎日
働きました。

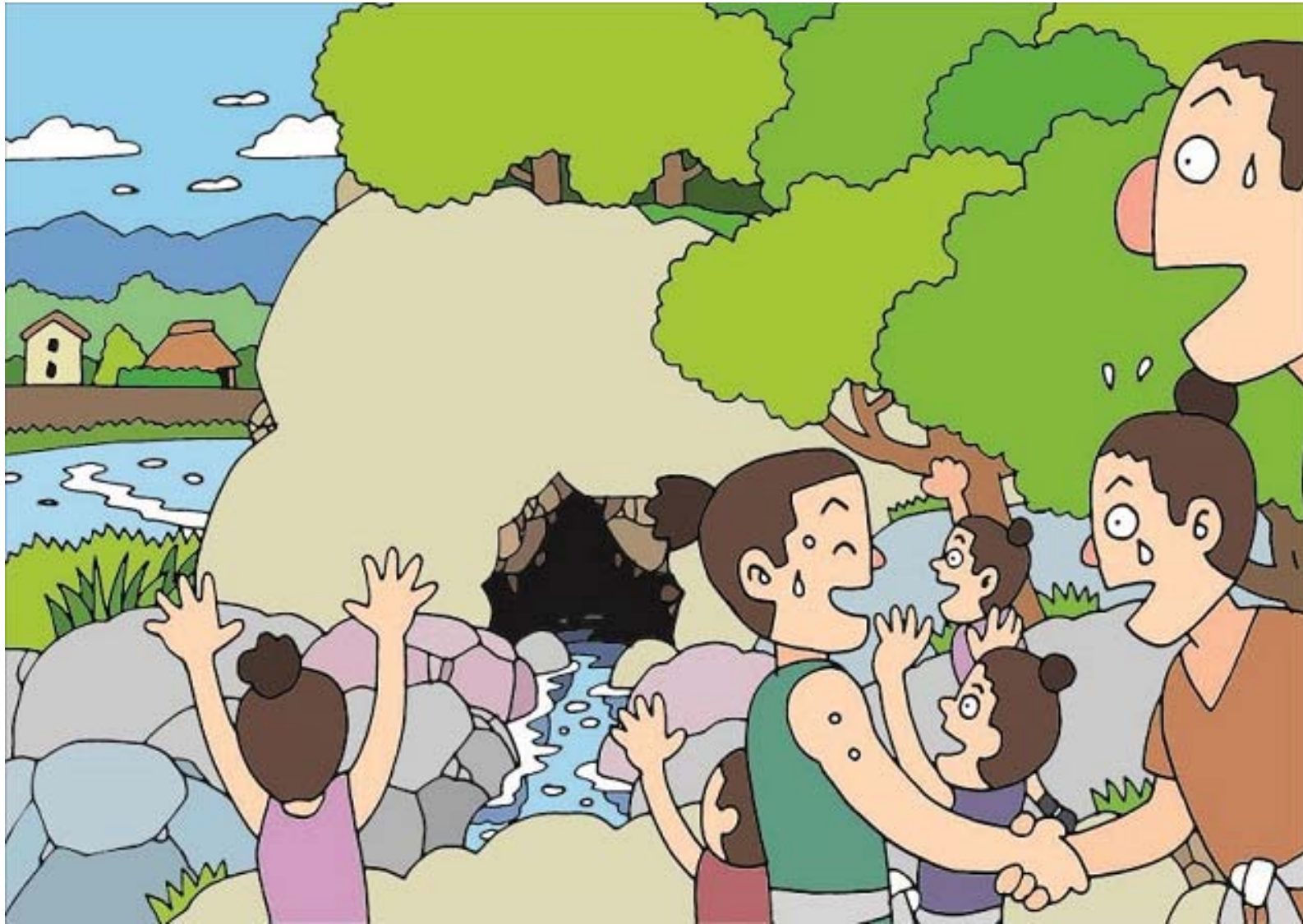
自分が村のために働ける事が嬉しかったのです。

ジンタの頑張る姿を見て、やがてほかの村人たちも加わり、
力を合わせて岩を掘り続けました。

家族のため、村の人たちのため、いきいきと暮らせる未来の
ために、みんなが力をつくしたのです。

そしてついに、

金田一の大口用水路



【ジンタ】
「やったあ！ これで取り入れ口ができた！」

【五兵衛】
「みんな、ありがとう！」

【多作】
「ジンタ、本当に頑張ってくれた!!」

【ナレーション】
20年以上の時間をかけて岩をくりぬき、明治21年にトンネルを完成させたのです。
村人は皆よろこびました。

【五兵衛】
「よし、これからが本番だ！
ここから水路を作って金田一村までつなげると。
そうすれば、米がたくさん作れる。
皆がんばろう！」

【全員】
「オー!!」

金田一の大口用水路



【ナレーション】
続いて取りかかった金田一村までの水路づくりですが、
またしても村人たちは頭を抱えました。

【村人A】

「もう、これ以上は村だけの力では無理じゃないか？」

【村人B】

「距離も長い。やり方も分からない。
人も雇わなきゃならないが、村のお金じゃ足りない。
どうしよう？」

【五兵衛】

「うーん…そうだ！岩敬(いわけい)さんに相談してみよう。
あの人は顔も広いし、頭も切れる。
いい考えがあるかもしれない。」

【ナレーション】

岩敬とは、その時代に大きな商いをしていた人物です。
五兵衛はさっそく相談に行きました。

【岩敬】

「なるほど、皆の気持ちはよく分かった！
よくここまで頑張った。今度はわしが頑張る番だ！」

【ナレーション】

岩敬さんが役場に行き、事業をおこして福島から呼んだ石
の専門家と一緒に、工事を進めたのでした。
取り入れ口から金田一村までの水路工事は、長く、人の力
での作業は想像を超えるものでした。
崖の岩を何メートルも削ったり、深さが5メートルもあるところ
を2キロも掘ったりと、とても厳しいものでした。

そしてついに、村人みんなの力により、昭和2年、取り入れ
口の完成から実に40年の月日を経て、金田一村につながる
「大口用水路」が完成したのです。

金田一の大口用水路



【ナレーション】

大口用水路によってひらかれた田んぼは約40町歩あり、
金田一村の生命を今も潤し続けています。

また完成した際に石碑も建てられ、関わった人たちの名前
が刻まれ後世に伝えられているのです。

おしまい